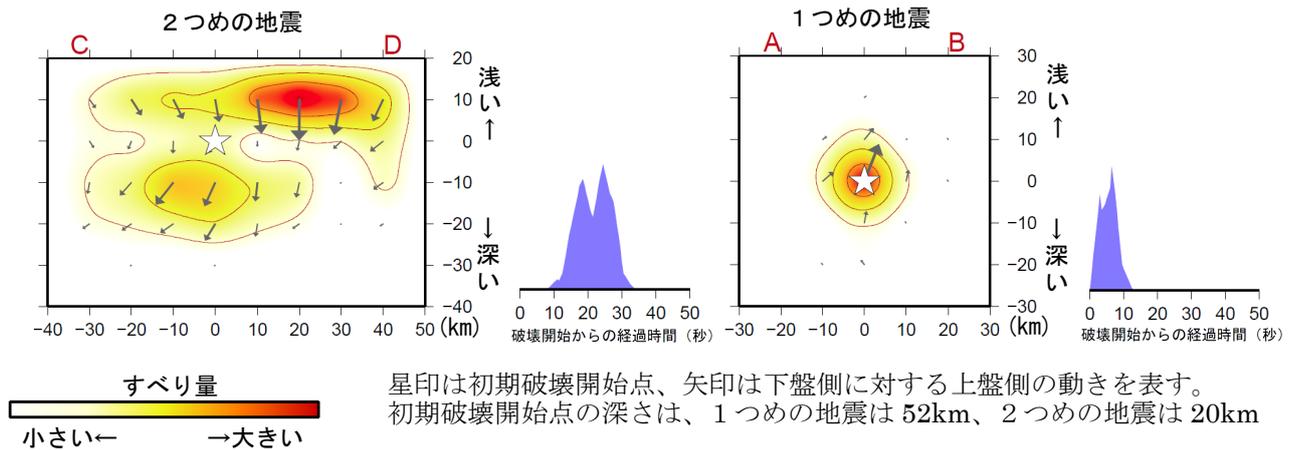


## 12月7日17時18分 三陸沖の地震 (遠地実体波による震源過程解析)

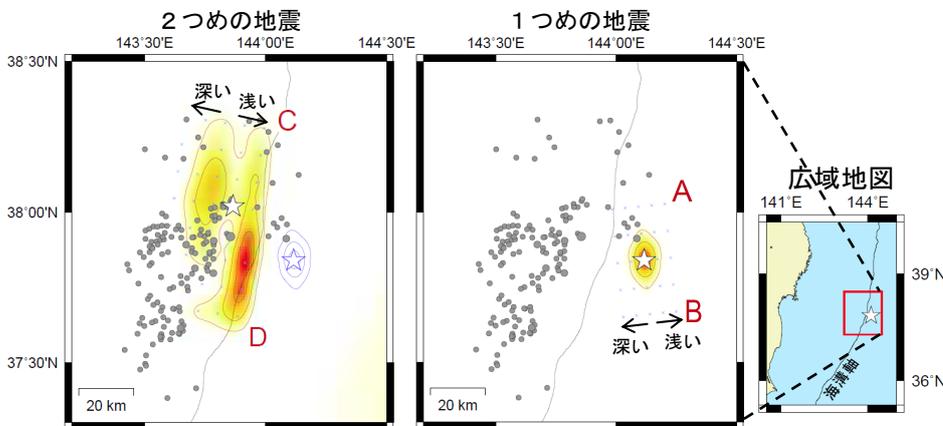
2012年12月7日17時18分の三陸沖の地震について遠地実体波を用いた震源過程解析を行った。解析では、1つめの地震(逆断層型)及び2つめの地震(正断層型)共に西傾斜の面を断層面とした。主な結果は以下のとおりである。なお、断層面の傾斜方向の取り方を変えても、結果は大きく変わらない。

	断層の 大きさ	主な破壊 継続時間	地震モーメント ( $\times 10^{20}$ Nm)	モーメント マグニチュード	最大すべり量
1つめ の地震	長さ 約20 km 幅 約20 km	約10秒	0.70	7.2	3.9 m (剛性率 70 GPa)
2つめ の地震	長さ 約80 km 幅 約40 km	約20秒	1.78	7.4	4.0 m (剛性率 40 GPa)

断層面上でのすべり量分布と震源時間関数(すべりの時間分布)

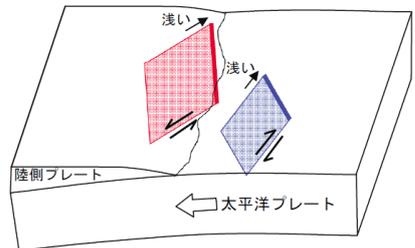


地図上に投影したすべり量分布

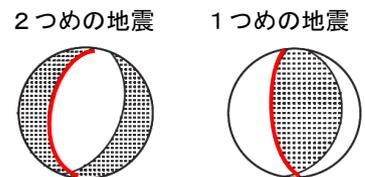


星印は初期破壊開始点、灰色は本震直後から1日間の余震分布を示す。2つめの地震の図中青色コンターは1つめの地震のすべり量コンターを示す。

本解析で設定した断層面の模式図



解析に用いたメカニズム解



解析に用いた面を赤線で示す。